

歯科治療で抜歯回避した女子中学生のケース（急性）

ホメオパシーセンター韓国 ホンソン

Holistic Homoeopathy Lab MUJIGAE

JPHMA 認定ホメオパス No.0957

インナーチャイルドセラピスト No.0225

アニマルホメオパス No. A0127

長谷川希生（はせがわきせい）

対象：14歳 女性

主訴：前歯、歯茎が膿んでいる抜歯を勧められてる

2021年11月

前歯に虫歯があり、治療しているが膿が出てなかなか引かない。抗生剤を使ったが全く効果なし。歯科医は膿がずっと出るようだったら抜歯をしなければならないという。炎症の緩和と膿を止めるためにどうにかしたい。

レメディー：

Ars.LM5 Syph.LM7 アルコールポータンシー

1日に2回（朝晩）20mlほどの水に3、4滴入れて飲むよう指示

マザーティンクチャーとティッシュソルトのコンビネーション

Φ Plan. ΦHyper.Φ Calen. ΦFrag.+Ferr-p.12x Ars-i. 12x Kali-s. 12x Calc-s.12x

スプレーボトルに上記のものを入れて一日2〜3回歯茎と口腔内にスプレーもしくは20mlの水に2、3回プッシュして混ぜた水で口を濯いでから飲む。

2022年2月

膿が出なくなった。レメディーを飲み初めてからは病院に行っていない。来月に大学病院に予約を入れた。スプレーを追加で使いたいと連絡が来る。

前回と同じ内容のコンビでスプレーボトル、使い方も同様

2022年6月

3月に大学病院に行ったが抜歯はしなくていいと言われ、神経治療だけで治療は終わった。歯科治療後も続けてスプレーを使いつつ管理をしている。今のところ悪化していない。

レメディー、マザーティンクチャーの選択理由

Ars.（三酸化ヒ素）不安から悪化、家族がコロナワクチンを打ったこともあり、シェディングの影響を緩和するため

Syph.（梅毒マヤズム）抜歯をする傾向、破壊的な傾向を止めるため。コロナワクチンのシェディングの緩和も考慮

MT) Plan.（オオバコ）口腔内の問題。歯茎の炎症と痛み

Hyper.（セイヨウオトギリソウ）神経痛、傷の治療のサポートに

Calen.（キンセンカ）炎症や傷のケアに

Frag.（エゾヘビイチゴ）口腔内の問題、粘膜の炎症のサポートに

TS) Ferr-p.（リン酸鉄）炎症の状態に

Ars-i.炎症、膿のでる状態に

Kali-s.膿で消耗するミネラル

Calc-s.膿で消耗するミネラル

考察：歯茎の炎症から膿がなかなか無くならないという状況と家族のコロナワクチンからの影響も考慮してのレメディーの選択だった。破壊傾向（梅毒マヤズム傾向）のある家系でもあり、急を要すると判断し Syph（梅毒マヤズム）を出した。口腔内のトラブルにマザーチンキも効果があ

ると判断し併用した。抜歯が免れるか半信半疑だったがクライアントとクライアントの母親の管理のおかげもあり効を成した。急性症状ではあるが症状に合ったマヤズムのレメディーを使い、マザーティンクチャーを併用することで克服ができたと考える。クライアントは基本キットも持っているが限界を感じて急性相談に来た。セルフケアでお手上げの場合は一人で悩まず急性相談をお勧めしたい。